

# 英語科学習指導案

授業者 新里村立新里中学校 遠藤美保子

1. 日時 平成15年9月3日(木) 5校時
2. 学級 1年生 男子20名 女子15名 合計35名
3. 主題 Unit 4 日本大好き(東京書籍 NEW HORIZON English Course 1)
4. 題材について

Unit 4は、折り紙の作品を見ながら「これは何?」とマークが問い、デミが応答する。(Part 1)「好きな教科は何か。」という対話(Part 2)、「ふだんの朝食に何を食べるか。」という対話(Part 3)のように日本での生活をめぐって3つの対話が展開されている。オーストラリア出身のマークとアメリカ出身のデミがまったく文化の異なる日本で生活をして、身の回りの出来事に疑問を持ち質問することは自然であり、必然的で、且つ考えられる至極当然な場面である。

言語材料としては、Part 1では、初めて疑問詞what-疑問文(be動詞)とその応答を学習する。Part 2では、be動詞の補語として形容詞を用いた叙述用法(be動詞+形容詞)を学習する。形容詞は性質や状態などを表わす働きがあり、自分の考えや感じ方を表現したり、他と比べて違いを言い表わしたりする時に必要な品詞である。Part 3ではPart 1で学習したwhatを用いた一般動詞の疑問文(what+一般動詞の疑問文)を学習する。

相手に未知のものをたずね、答える。また、自分の感想や感じ方、考え方などを形容詞を用いて表現することは、お互いの感じ方、考え方などの違いを認め、より深く相手を理解でき、コミュニケーションをはかる上でも大切なことである。

生徒は、学力検査の結果から見ると、4領域の中で「書くこと」の力がかなり落ち込んでいる。これは数値的に見ても明確である。(学年得点率45.0 全国得点率58.6 全国比 77) また、観点別では「表現の能力」が低く、全国平均との差も著しい。これは、総合学力の上下に関わらず低い。しかし、授業では女子が消極的で音読の声が低いものの、男子は意欲的で発言や挙手も多く、全体的には元気で明るく英語学習に取り組んでいる。

英語学習のために音読練習や暗唱練習が大切であるということや、ペアワーク等でできるだけたくさん相手の相手に挑戦することがコミュニケーション活動を広く展開させる大きな力になることは、徐々に理解できているが、まだ、打破できていない生徒が見られる。

日常の授業では、できるだけ文法説明は簡単に、そしてできるだけ短い時間で済ませ、繰り返し練習して習得させるように、心がけている。また、Read and look-up等で暗唱することをこれまでのどのUnitでも続けて指導してきているが、文字と音声の結びつきに困難を感じている生徒や、be動詞と一般動詞の区別と使い分けができなくなってきている生徒も見られる。毎時間最初のwarm-up questionsではbe動詞と一般動詞の疑問文を取り混ぜた質問をして定着を図っているところでもある。形容詞については、ふだんの生活の中でも日本語化しているものも多いので、生徒にとってはそれほど難しくないとと思われる。

1年生は、英語を学習してまだ数ヶ月しか経っておらず、既習の文型や語彙はかなり限られているため言語活動も、基礎的なものに限られてくる。しかし、1年生は、全く読めなかった英語を読めるようになれば、それだけで無条件にうれしいし、新しい文型や単語の数が増えることだけで喜びを感じている。その気持ちを大切にして継続させることを常に考慮しながら、いろいろな場面に合う必要な表現や会話を段階をおって指導していきたい。そのためには意欲をそこなわせないように色々な活動をとりいれながら力をつけていきたいと考える。

## 5. 指導計画

- (1) Part 1 「これは何?」 What is this? It's a bird. -----1h (本時)
- (2) Part 2 English is interesting.  
English is not easy. -----2hs
- (3) Part 3 「朝食は何?」 What do you have for breakfast? ----- 2hs
- (4) Writing Plus 自己紹介 -----1h
- (5) 単元の評価 -----1h

## 6. 本時の達成目標

- (1) 相手に未知のものについて、それが何であるのか尋ね、また答えることができる。
- (2) What+疑問文の仕組みがわかり、言語活動で積極的に使おうとする。

## 7. 本時の指導の構想

本時は、目の前にある物や趣味や好きな事など未知の物(事)について、初出の疑問詞whatを用いた[what+be動詞]の疑問文とその応答を指導する。これは、異なる文化に身を置いた時、最も自然に使用され、最も会話の糸口をつかみ、発展させていく上で大切且つ必要頻度の高い大切な表現である。thisがthatになっても生徒の思考に混乱は招かないと思われるが本時は、What's this?の口頭練習を数多く行ないたい。また、本時は、基本文型、「覚えたい語句」を練習した後、教科書本文の暗唱へとつなげていきたい。

まず、導入段階では、warm-up questionsや既習の会話を発表させ、本時への意欲付けを図っていく。発展段階では、新文型の必然性を感じる場面を設定しながら、クイズ的に楽しく、テンポの良いリズム感のある指導を心がけたい。終末段階では、本時を振り返り、「書くこと」で整理とまとめを行い、個別の支援によって理解度を確かめながら、達成感と今後の学習への意欲を高めさせて終わりとしたい。

## 8. 本時の評価の観点

- (1) 相手に未知のものについて、それが何であるのか尋ね、また答えることができたか。
- (2) What+疑問文の仕組みがわかり、言語活動で積極的に使おうとしたか。

本時の展開

支 音	時間	学 習 活 動	評 価 の 視 点 ・ 方 法	指 導 上 の 留 意 点
導 入	7	1. ウォームアップの英問英答を行なう ・ウォームアップクエスチョンズ ・暗唱発表  2. 新出文型の導入をする。  3. 学習課題の確認をする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                         未知の物の尋ね方がわかり、使えるようになる。                     </div>	挙手、応答の仕方 暗唱度、声の大きさ 表現の工夫	・be動詞と一般動詞をおりませながら、短時間で、できるだけたくさんの生徒に質問する。  ・実物などを提示し、視覚に訴えながら導入する。  ・知らないものやわからない事を尋ねるときにwhatが使われる事、会話を発展させる為にも、自分の語彙を増やすためにも必用であることを指導する。
		4. 新文型の説明 What-の意味を確認する。 (教師の自問自答による。)  5. 新文型の練習をおこなう。 whatの文の仕組みを確認して、新しい文型の練習をする。  (1) ゲームクイズ① (2) ゲームクイズ②  6. 基本文をもとにペアワークで対話練習をする。  7. 教科書本文を読む。  8. 教科書本文の内容を確認する。  9. 新出語句の練習をし、意味を確認する。  10. 音読練習と Read and look-up をする。	新出文型「What's this ?」の文の意味が言えるか。(理解)  新出文型の文の仕組みを理解することができるか。(知・理)  「What's this ?」の質問に対して、答えることができるか。(理解・表現)  「What's this ?」としらかりと大きな声で質問することができるか。(理解・表現) 「What's this ?」を用いて対話することができるか。(表現・発表)	・口頭練習では、最初から短縮形を使って新出文型の導入をする。  ・be動詞の平叙文を疑問文に直す手順を想起させ、whatが文頭に来る事を指導する。「what+be+主語」  ・ゲームによってできるだけたくさんの新出文を聞かせ、慣れさせる。 ・生徒に出題させ、新出文を「話す」活動をさせる。  ・初めに「Is this a ~?」と推測させる。わからない時はgive up。 ポイント制にすることを説明する。 ・ペアを組めない生徒の支援をする。  ・聞くポイントを与えて聞かせる。  ・絵と音声を通して内容を理解させる。 ・大まかな意味を確認してから、熟語・連語、慣用表現について説明する。
展 開	38			
終 末	5	11. 本時の学習のまとめをする。 「What's this ?」が未知のものを指してたずねる言い方であることを確認する。  プリントに本時の学習のまとめをする。	「What's this ?」の文型、意味、用法を理解できているか。  (知・理)	・机間巡視をし、新出文型を理解できているか確認しながら、理解を支援する。  ・プリントを終わらせることができなかった生徒への配慮をする。

# Unit 4 - 日本大好き (1) これは何?

(まとめ)

**What is this? — It is a bird.** これは何ですか。——鳥です。

① 「何〜?」……ときどきは、\_\_\_\_\_で文を始めます。  
What is ~? で「〜は\_\_\_\_\_」という意味になります。

② **What is this?**……には、**It is ~.**と答えます。  
「これは何ですか。」「(それは)〜です。」という形です。

③ **What is**……はふつう\_\_\_\_\_と言います。(短縮形)  
**What's this?** — **It's a bird.** と言うのがふつうです。

Is this ~?

**What** is this?

「何?」ときどきは  
What ~?



**会話**



この\_\_\_\_\_は、そばにあるものを指して「これは何?」「鳥だよ。」という会話です。離れた所にあるものなら、ときましよう。

## 基本文練習

1. 例にならって、「これは何ですか。」「〜です。」という文を完成させなさい。

例  notebook	(1)  bike	(2)  pencil	(3)  cat
-------------------	-----------------	-------------------	----------------

What is this? — It is a notebook. (これは何ですか。——ノートです。)

- (1) \_\_\_\_\_ this? — It is a bike.
- (2) \_\_\_\_\_ is a pencil.
- (3) \_\_\_\_\_

2. 絵を見て、例のように「これは何ですか。」「〜です。」という文を作りなさい。

 a bird	① a cat	② a bag	③ a bus
------------	------------	------------	------------

(例) What is this? (What's this?)  
It is a bird. (It's a bird.)

- (1) \_\_\_\_\_ is this? \_\_\_\_\_ is a cat.
- (2) \_\_\_\_\_ is \_\_\_\_\_? \_\_\_\_\_ is a \_\_\_\_\_.
- (3) \_\_\_\_\_?

3. 例を参考に、次の日本語を英語になおしなさい。

- (1) あれは、何ですか。—— わたしたちの学校です。  
\_\_\_\_\_ our school.
- (2) あれは、何ですか。( is that What ? )  
\_\_\_\_\_
- (3) (それは) 飛行機です。( a it plane is . . )  
\_\_\_\_\_

4. 例のように次の文を What の疑問文に書き換えて、その答えの文も書きなさい。

(例) This is a train. → What's this? It's a train.

(1) This is a car.  
\_\_\_\_\_

(2) This is a pencil.  
\_\_\_\_\_

(3) That is a park.  
\_\_\_\_\_

5. 内容理解 教科書 p 34, 35 の内容と合うように、次の問いに日本語で答えなさい。

- (1) p. 34 の折り紙は何ですか。 ( )
- (2) p. 35 の折り紙をデミはわかりましたか。 ( )
- (3) p. 35 の折り紙は何でしたか。 ( )

6. 大切な表現 日本語に合より、空欄に適切な語を言えなさい。

\_\_\_\_\_?  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

(1) ほんとうですか。

(2) (わたしは) わかりません。 I don't

(3) そのとおり。 That's

what

( )

bird

( )

know

( )

an

( )

animal

( )

really

( )

That's right.

( )

I don't know.

( )

Really?

第1学年 英語科年間指導計画

新里村立新里中学校

第1学年における英語科の目標

英語に親しみ、初歩的な英語を用いて自分自身や家族・友達のこと、あるいは日常生活のことを聞き手にわかるように伝えたり、話された内容などから相手の意図を正しく理解して適切に応じることができるようにする。

月	題 材	目 標	評 価 規 準			
			コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
4	Hello, English	英語の音や文字に興味・関心を持つ。 簡単な挨拶ができる 教室英語を理解する。 アルファベットの読み書きができる。 簡単な単語が読める。	積極的にペアの相手と会話をしようとする。	簡単な挨拶を聞き手にわかりやすく伝えることができる。	相手が話す挨拶に回答することができる。	英語の挨拶の仕方や特徴がわかる。
5	Unit 1 ようこそグリーン先生	挨拶や自己紹介の仕方を知る。 相手の確認の仕方を知る。 出身国について尋ねたり答えたりできる。	挨拶や自己紹介を行う時、相手の目を見てはっきり言う。 積極的に対話を継続させようとする。	自己紹介の内容を相手にわかりやすく伝えることができる。	話し手の挨拶や自己紹介の内容を聞き取り正しく応答できる。	英語の挨拶や自己紹介の表現の仕方がわかる。
	Speaking Plus	相手に話しかけたり、お礼を言うことができる。	相手の注意を引こうと積極的に話しかけようとする。	相手に適切に応じている。		相手に話しかけたりお礼・返礼の表現の仕方がわかる。
	Unit 2 学校で	校内や建物の説明の仕方を知る。 知人を人に紹介することができる。	自分の学校や身近な建物についてわかりやすく説明しようとしている。 Hiを用いて自然な形で人を紹介しようとしている。	自分の学校や身近な建物の説明を聞き手が正確に伝えることができる。	話し手が説明する内容を聞き取り正しく応答ができる。	
6	Words Plus	数字の言い方を知る。				
	Unit 3 グリーン先生の初受業	スポーツや音楽についての情報を含めた簡単な自己紹介ができる。	積極的に自分の関心事について表現しようとする。	自分の関心事についての紹介を正確に聞き手に伝えることができる。		スポーツや楽器を表す語彙がわかる。
	Listening Plus	趣味や学校生活についてインタビューすることができる。	数多くの人に趣味や学校生活についてインタビューしようとする。		インタビューの内容を聞き取り正しく応答ができる。	一般動詞を使った文(肯定・疑問・否定)の形、意味、用法がわかる。
7	Speaking Plus 2	謝る・聞き返す表現の仕方を知る。	相手の協力を得て会話を継続しようとしている。	適切に応じて話している。	質問に適切に答えている。	謝る・聞き返す表現がわかる。
	Unit 4 日本大好き	日本特有のものに関する知識を深める。 食事や教科について他国との文化の違いを知る。	辞書を積極的に利用して友達やAETに話しかけようとする。 AETから食事について積極的に情報を聞き出そうとしている。	自分の好きな教科や毎日の朝食について相手にわかりやすく伝えている。	インタビューの内容を聞き取り正しく応答ができる。	Whatを用いた疑問文の形・意味・用法がわかる。 日本特有の物を英語で説明できる。 食べ物を表す語彙がわかる。
	Writing Plus	話題を選んで自己紹介文を書くことができる。	間違いを恐れず学んだ表現を使っている。	必要な分量で書いている。		
8 7 9	Unit 5 ハンバーガーショップで	ハンバーガーショップでの注文の仕方や金銭のやりとりの仕方を知る。 数の尋ね方と答え方を知る。 提案・申し出・指示の仕方を知る。	間違うことを恐れず話している。	相手の理解に応じて話している。 強制やイントネーションに気をつけながら話している。	インタビューの内容を英文でまとめることができる。 相手の提案や指示の内容に対して正しく応答できる。	お店で注文する時の特有表現がわかる。 Let's ~ 命令文の形・意味・用法がわかる。
	Words Plus 2	曜日の言い方を知る。		相手に適切に応じている。	相手の話す時間割の内容を正しく聞き取ることができる。	曜日の言い方や尋ね方がわかる。
	Unit 6 南半球からのメール	3人称の人の紹介の仕方を知る。  日本とオーストラリアの違いを知る。	情報をできるだけ多く英語で聞き出そうとしている。 家族に関する情報を積極的に聞き出そうとしている。 自ら学んだ表現を使っている。	さまざまな動詞を用いてまとまった英文で表現している。 家族を表す語彙を用いてインタビューしている。 さまざまな動詞を用いてまとまった英文で表現している。	インタビューの内容を聞き取り正しく応答ができる。 オーストラリアについての情報を読みとっている。	3人称単数現在形の文の使い方がわかる。 日本とオーストラリアの違いがわかる。

単元の評価規準と判断基準

単元	到達目標	評価規準		判断基準		方法
Unit 4 日本大好き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未知のものが何かを質問することができ、質問に答えることができる。</li> <li>・自分が知っている物や人について、「～は・・・だ。」と説明したり、感想を述べたりすることができる。</li> <li>・「何を～しますか。」という文を作ることができる。</li> </ul>	未知のものを、What's this (that)? で質問することができる。	関心 表現 理解 知・理	未知のものについて状況に応じてWhat's this?とWhat's that?を使い分けて質問し、また正しく質問に答えることができる。	A	ペアワーク 発表 テスト
				What's this?とWhat's that?の意味の違いを知って質問し、また質問に答えることができる。	B	
				What's this?とWhat's that?が使われる状況について、物や絵を用いて会話を行うことで、実感を持った理解ができる	C	
		主語+be動詞+形容詞の文で知っている物や人について、説明したり、感想を述べたりすることができる。	表現 知・理	interesting/easy/hard/difficult/useful/kind/tallの形容詞の意味と用法を理解し、notと組み合わせて、自分が知っている物や人についての感想を述べる事ができたか。	A	テスト 作文 発表
				教科についての感想を形容詞を用いて表現することができる。	B	
				教科についての感想を日本語で述べさせ、英語でどのように表現するかという課題意識を高めさせることで、個々の形容詞を印象づけるようにする。	C	
		教科書本文に基づいた対話文を作り、発表することができる。	表現	教科書の基本文や板書を見ないでスラスラ問答できる。	A	発表 観察
				対話文を教科書の基本文や板書を参考にして発表することができる。	B	
				好きな教科とその理由を日本語で考えさせ、発表も英文を見ながらするように指導する。	C	
		疑問詞 What を一般動詞疑問文と組み合わせて疑問文を作ることができる。	知・理 表現	What + do you ~?という文の作り方がわかり、作ることができる。	A	発表 ペアワーク
				What + do you have for breakfast?の文の構造と意味がわかり、それを使って、質問することができる。	B	
				朝食のメニューを絵を使って表し、イメージを広げながら会話することで、口頭練習をなめらかに行えるようにする。	C	
Writing Plus1 自己紹介 一話題を選んで書こう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習やスポーツ、音楽を話題に自己紹介の文が書ける。</li> </ul>	名前・趣味・相手への質問が含まれた、自己紹介文を書くことができる。	関心 表現	4文以上のレベルで、趣味と相手への質問が含まれた自己紹介文を書くことができる。	A	作文 発表 スピーチ
				3文程度で、趣味を含む自己紹介文を書くことができる。	B	
				学習・スポーツ・音楽の中から自己紹介で使いたい話題を選択させ、表現したい意欲を作文の完成へとつなげるようにする。	C	